

人権推進部だより



9月12日発行

西条東中学校

PTA 人権推進部

人権推進部では、年間を通して様々な人権問題に関わる研修会に参加し、学びを深めています。研修会に参加された方の感想を通して、皆様にも人権問題について考えていただき、家庭で身近な人権問題について話をする時間を増やしていただけると幸いです。

西条市人権・同和教育講座に参加して

「部落問題」(吉岡 綾さん 部落解放同盟福岡市協議会青年部)を聴いて

- 講師の方は同世代の方でした。他人事で昔話のような感覚でいたのですが、部落差別が同世代の方にも起こっていることを初めて知り、衝撃を受けました。教科書で学ばなければ、話を掘り起こさなければ風化していくと話してくださいました。正しい知識を学んだ上で、暮らしていくことが大事だと思いました。子どもたちの学習も、差別が起こる経緯や事実をもっと学べると良いと思いました。



「インターネット上に反映される実社会の人権問題」

(松村 元樹さん 公益財団法人反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長)を聴いて

- ネットの特性やプラス面、マイナス面について学ぶことができました。差別や人権侵害行為の容認性、深刻性、拡散性について有効な社会保障への取組が急務であると実感しました。差別をネタにして金儲けを行っている人たちがいます。正しいネットモラルを身に付け、閲覧しない、報告するなどして、差別を助長しないようにしていきたいです。
- 普段、何気なく使用しているインターネットから受ける影響はとても大きく、本当・嘘関係なく拡散されている現状です。松村先生のお話を聞いて、子どもたちに正しい考えを伝えるためにもまず大人がこの問題について勉強する必要があると思いました。こういった問題は何年もいろいろな形で解決しようと動いても、今なお消えていません。とても悲しい現実です。一人一人、人権に対する思いを強く持つことが必要ではないかと思いました。



西条市差別をなくする市民の集いに参加して

人権啓発劇「最高のスタート」を観劇して

○ 私は今まで、あまり人権について自主的に学ぼうとはしてきませんでした。今回の人権啓発劇を観て、色々なことに気付きました。差別をしているつもりではなくても、自分が気付かないうちに差別をしてしまっていることがあること。自分は良いと思ってすることが、相手にとって必ずしも良いことではないこと。そのことに気付いた時からでも、差別について勉強を始めることは遅くないと知りました。

○ 劇中にハンセン病問題、部落問題、障がい者への差別問題などの人権問題が分かりやすく組み込まれていて、観ていて色々気付かされ、とても感動的で良かったです。人権問題の学習は、被差別者のためにするのではなく、私たち差別をする側のためにすること、差別する側もされる側も決して幸せにならないということを、子どもたちにも伝えたいと思います。

○ 障がいのある人に対し、「何かしてあげなくちゃだめだ」「優しくしなくちゃ」という思いは勝手な思い込みで、差別につながる場合があります。一人の人間として、その人ときちんと向き合うことが大切だと学ぶことができました。地域による差別は近年少なくなっているように思いますが、それは「差別をなくそう」と活動を続けてきた結果なのかなと思います。今後も学んでいきたいです。

○ 部落差別や障がい者差別、ハンセン病問題について知ることができました。今まで人権について学ぶ機会がなかったので、勉強になりました。差別する方も差別される方も誰も幸せになりません。皆が幸せになるために、人権のことを知ってほしいです。

○ 人は誰でも生まれた環境や体の状態を自分で選ぶことはできません。その違いを理由に差別することは間違っていると思います。ただ、知識をしっかり身に付け、区別することは大切ではないかとも感じます。「人を思いやる気持ち」を忘れず、支え合う環境づくりを大切にしたいです。

○ 差別をなくそうと簡単に言葉にしても、どう行動すれば差別をなくすることができるのかなど、いろいろ考えることができました。自分が正しいと思っている障がい者への対応は、時に相手を傷付け、周りの人たちにも悲しい思いをさせてしまうかもしれないと気付かされました。人から聞いた根拠のないうわさやネットなどの情報に流されがちですが、それを鵜呑みにせず、自分で調べたり、講演会に参加して、正しい知識を身に付けることが必要だと思いました。

